加飾成形品サンプル

技術の複合化で生み出す、柔軟な発想が時代を切り開く

第一プラスチック株式会社

大阪21 ISO 9001 ISO 14001

http://www.daiichiplastic.co.jp/

クリーンルーム成形エリア

“あらゆる素材をあらゆる形に”をテーマに、多業種へ成形品を提供

プラスチックの成形加工で、ユニークな取り組みを続ける企業がある。軟質・硬質・発泡体・複合多層材料・厚板から薄板まで、「あらゆる素材をあらゆる形に」をスローガンに、さまざまな業種業界に熱成形品を提供している第一プラスチックだ。

技術的には3つの大きな柱がある。ひとつは大型厚板の真空圧空成形。1500×2500㎜のものまで一体で成形できる設備を有している。ふたつめは、印刷など加飾された材料を真空成形する技術。印刷されたものを成形すると柄に歪みが出るので、その歪みをあらかじめ見越して、もともと歪んだ版をつくり、それを印刷・成形すると正しい位置に柄が表現できるという。さらにもうひとつの技術は、表面にデザイン性や機能性を付加されたフィルムを射出成形品の表面につけるフィルムインサートや3次元ラミネートと呼ばれるものだ。

例えば、耐薬品性が求められる医療機器や耐衝撃性が必要なゲーム機などで、汎用性のある樹脂の表面だけを機能性の高い樹脂フィルムで覆うことで、そうしたニーズに低コストで対応できるのだ。

こうした第一プラスチックの技術の成果は、自動車の内外装、自動販売機のディスプレイ、医療・福祉機器、アミューズメント機器等、あらゆる分野で目にすることができる。

真空圧成形機

めざすものは業界トップレベルのクオリティ

第一プラスチックでは、板材やフィルム材であれば、加飾材料であれ機能性フィルムや複合素材であれ、スーパーエンプラであれ、どんなカタチにでも成形できるという。しかもすべてのプロセスを一貫して社内で対応。クリーンルームまで備えている。

第一プラスチックが行っているのは、技術の複合化だ。フィルムや板を成形するというコアな部分は変えずに、さまざまな技術要素を組み合わせることで、付加価値を高めていくということ。高付加価値な技術を開発し、他社では作れないものを作ることのできるオンリーワン企業をめざしているのだ。

こうした技術力の高さをバックボーンに、創業以来、取引先を一社や一業種に依存せず多業種取引を展開。さまざまなプラスチック成形品を世に送りだしてきた。そして今、さらに高精度な成形が可能となる高圧成形機を導入し、業界でもトップレベルのクオリティを極めようとしている。

Company Profile

第一プラスチック株式会社

住　所／〒581-0043
　　八尾市空港1-117
創　業／昭和43年1月
設　立／昭和49年9月
資本金／1,000万円
従業員／50名
ＴＥＬ／072-949-6686
ＦＡＸ／072-949-9297

■主な事業内容
プラスチック成形加工・組立、
真空成形・圧空成形
フィルムインサート成形
3次元加飾・シルク印刷

■主な取引先
住宅家電機器、理容美容機器
福祉医療リハビリ機器
建機農機、特殊車両
自動車、カー用品
電子機器、写真現像機
ディスプレイ、生活用品
アミューズメント、ゲーム
水処理、梱包資材

当社のセールスポイント

「繊維や木材、金属フィルムとプラスチックの複合化」新しい発想を形に。

代表取締役社長
松田 雄一郎さん

当社は真空成形・圧空成形を中心に印刷（加飾）された成形品作りを得意としております。その技術をベースに加飾だけではなく機能性フィルムや異種素材と射出成形品を組み合わせるなど、技術要素を複合化させる事で低コストに軽量・環境・高機能といった時代のニーズに対応する成形品をご提案しております。